



代表取締役社長

杉原 功一

コア技術の 追求を通じて、 持続可能な社会の 発展に貢献する

2015年度の総括についてお聞かせください。

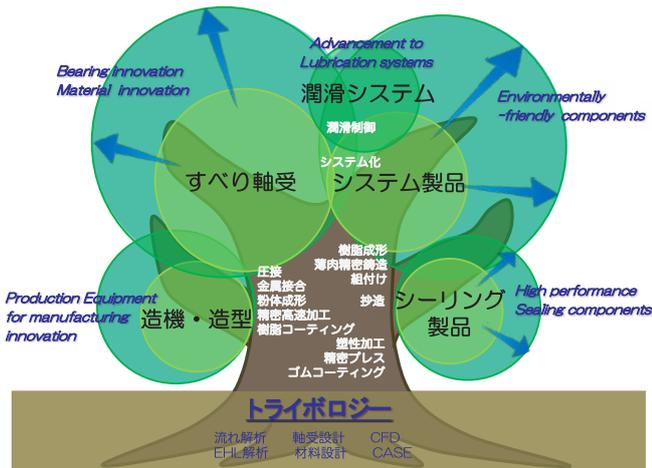
2015年度の売上高は1,072億88百万円となり、過去最高レベル(歴代2番目)になりました。利益面では、営業利益66億29百万円、経常利益62億97百万円、当期純利益37億72百万円となり、すべての項目で過去最高の数字を残すことができました。

2015年度は「VISION2015」の仕上げの年であり、活動の3軸「製品・製造領域のグローバルな拡大」「製品技術・生産技術の革新」「人財力の強化」を掲げ、グループの総力を挙げて、中期的に取り組んできた各種の施策が成果として具現化できたと考えています。特に、新製品の投入、国内外での拡販、さらに原価改善活動などにより、「RAコーティング軸受」「RR(良品廉価)軸受」「バキュームポンプ」など、当社の主力製品を大豊工業並びに国内外の子会社で新規に生産を始めることができました。

新たにスタートしたVISION 2020、2016～2018年度新中期経営計画について、まずは、事業の中核に関することをお聞かせください。

〔詳細〕特集 P7へ

「トライボロジーをコアに、軸受をはじめとした環境に貢献する製品を迅速に生み出し、グローバル



トライボロジーを核とした事業領域の拡大

にお客様へお届けする」をスローガンに、本年4月よりVISION 2020をスタートさせました。VISION 2020の策定においては当社の強みであるトライボロジーをベースとして事業領域を広げていくことをイメージしています。また、単純な将来のロードマップとして描くだけでなく、それらを実現するための具体的なプランがタイムリーに企画できる「VISION」であることも意識しています。

2015年度は、日本の自動車産業の好調と円安に助けられたところもあり、必ずしも我々の努力だけで達成できたものではありません。また、更に今後は中国・アジアの新興国が持ち直し、円高に移行する中で、グローバルな競争がますます激化することが予想されます。そこで、「新中期経営計画」の策定においては事業分野別にチームを作り、過去のデータを分析するところから抜本的に見直すことに着手しています。

当社のコア事業である軸受については、材料開発、構造設計の両面からの刷新に取り組んでいます。新たに研究開発・生産技術開発のスピードアップを実現する実証ラインを構築し、グループ、仕入先様の技術を活かしながら付加価値の高いハイグレードな製品づくりに挑戦していきます。同時に、設備のコンパクト化と工数低減に注力した、より生産性の高い次世代加工ラインを確立し、コスト競争力を格段に高め、一層の拡販を図ります。

軸受以外の事業では、特にバキュームポンプの拡販、グローバル生産体制の確立を推進してまいります。

トヨタ自動車様よりTNGA※関連製品として、当社のバキュームポンプをガソリン、ディーゼルエンジンでご採用いただきました。国内外の生産拠点において品質、生産量ともに安定した供給体制を確立し、新たな顧客創出に繋げていきたいと考えております。

※TNGA (Toyota New Global Architecture)
トヨタ自動車の新たな車両開発手法。開発段階から部品やユニットを共有化して複数の車種で活用し、商品開発力強化と開発コスト削減の両立を図る

「新中期経営計画」のスローガンを中心に描く、社長の思いについてお聞かせください

「ゆるぎない『信頼と技術』でグローバルに躍進」というスローガンを掲げ、「技術・品質・原価の徹底追求により、世界トップの競争力を持つ企業となる」「人材・組織づくりとリソースの最大活用により、グローバル基盤を更に強化する」という2つのテーマを愚直に実現していきたいと思っています。

中でも、組織機能の再構築と人材育成については、今後グローバルに事業を拓げる上で、非常に重要な課題であると捉えております。

当社ではこれまでも、QCサークル活動やTQM活動を通じて、現場の課題を解決してきたという歴史があります。今一度、この良い風土を再評価し、先輩から後輩へ教え・教えられる職場づくりの強化が、効果的に事業を進める推進力のひとつと考えています。そこで、「燃える職場、社員総活躍プロジェクト」と題し、職場の一体感を醸成する取り組みを開始しました。



「教え・教えられる風土づくり」、「人財」の育成、さらには風通しの良い組織づくりなどで企業全体のポテンシャルを高めていきたいと考えております。具体的には、技能系の職場において「元気工場プロジェクト」と題した職場活動や、事務・技術員では問題解決力の向上など、教える側、教えられる側双方へのスキルアッププログラムを展開しております。

「大豊社員の心構え」を策定された思いなどお聞かせください。

これまで社員の行動全般に関する規律を示したものとしては「大豊社員の行動指針」がありました。今回新たに策定した「大豊社員の心構え」は、当社社員として仕事に取り組む上での具体的な心構えを示したものです。この策定にあたっては企業として成長を図る上で自分たちに必要なこと、また現時点で足りないことを社員自らの“声”として挙げてもらいました。

それぞれの項目における意味や意図を真剣に考え、自らの行動を踏まえて部下に指導し、組織としてのベクトルを合わせていきたいという思いから、まずは管理職から実践してもらいます。社員一人ひとりに「世界中で大豊グループの製品が使われている」「私たちが自動車業界を支えている」という“誇り”と“自覚”を常に持ってもらい、それぞれの役割と責任を当事者意識を持って全うしてほしいという願いを込めました。

全社員に浸透するには時間が掛かるとは思いますが、人財育成はもちろんのこと、活発で健全な組織づくりに繋がるとの思いから丁寧に取り組んでいきたいと考えております。

環境対応に関するお考え、取り組みについてお聞かせください。

〔詳細〕 特集 P9へ

2015年10月にトヨタ自動車様が、2050年までに新車CO₂ゼロにチャレンジする「トヨタ環境チャレンジ

2050」のリリースを行いました。自動車業界全体としてエンジン車の燃費向上に加え、HV車、PHV車、EV車、FCV車といったエコカーの普及が加速的に進むものと思われます。

大豊グループとしてもVISION 2020の重要施策の一つとして自動車の燃費向上、EV化、FCV化に対応する技術開発を掲げ、中長期的に取り組んでいく考えです。当グループのコア技術であるトライボロジーは環境に貢献できる技術です。TNGA関連の製品をはじめ、高性能エンジンに対応したメタル、新たな潤滑システム製品、FCV関連製品の開発など、取り組むべきテーマはたくさんあります。トライボロジーを追求、そして製品づくりを通じて環境に貢献してまいります。また、エネルギー効率に

大豊社員の心構え

私たち一人ひとりは大豊グループで働く一員として誇りと自覚をもって行動します

お客様第一	お客様と自分の仕事がどうつながっているか考え、喜ばれる製品・サービスを迅速に提供する
チャレンジ	高い目標を掲げ、失敗をおそれずに挑戦し、情熱・熱意をもって最後までやり切る
当事者意識	常に「自分は何をすべきか」を考え、率先して必ずやり切る
チームワーク	他の部署の支援・理解があって自分の仕事が成立している事を忘れず、人との関わりを大切にする
現地現物	現場に足を運び、事実を確認し「なぜなぜ」で真因を追求する
改善	日々状況が変化する中、どんな仕事にも創意と工夫で絶え間ない改善に努める
質実剛健	儉約に努め、強い心と身体をもって、何事にも愚直に取り組む
正直	何事も勇気をもって事実を正しく報告する
日々の成長	毎日の仕事を通じ、積極的に教え、教えられ、自ら学ぶ
感謝	自分の家族、そして我々を取り巻く地域社会に感謝する



優れた環境負荷の少ない新工法、新たな生産ラインの構築など、生産現場の環境貢献も同時に進めてまいります。

次代に応える環境施策として新たに「第6次大豊環境取り組みプラン」を策定しました。当プランの達成に向け、全社を挙げて取り組む所存です。グループ各社とグローバルマネジメント体制も構築し、環境というキーワードが大豊グループの一層の強みになるように努力をしていきたいと考えています。

大豊グループのCSRに関する考え方、取り組みについてお聞かせください。

2015年6月、大豊グループとしてのCSR方針を策定・リリースいたしました。当社において社是の次に位置する大変重要な方針となります。環境、地域、品質、ガバナンスなど、その取り組みは様々ですが、それだけ経営に密接に関わっているものと認識しております。

その基盤として、2015年6月組織改正にて、当社の環境企画機能を法務室に移管・統合し、新たに「CSR推進室」を設置いたしました。これにより、CSR方針に基づいた活動の強化を図るとともに、またグループ内外に対して経営における環境の位置付けを明確にしました。現在CSR推進室が中心となり、CSRの基盤となるコンプライアンス、リスクマネジメント、コーポレートガバナンス強化に向けた取り組みを重点的に実施しております。

ビジネスがグローバルに拡大していく中、海外での現地生産、現地調達、現地採用もさらに進んでいくことでしょう。そのため、国内での取り組みを海外の事業体にいかに早く浸透させていくかが今後の課題です。グローバルでTAIHOブランドを確立するためにも、文化も環境も商習慣も違う海外において国内同様の取り組みができるように注力してまいります。

2000年11月に当グループのコア技術であるトライボロジーの研究開発支援と啓蒙を目的とした「大豊工業トライボロジー研究財団(TTRF)」を設立し、世界



のトライボロジー研究者を支援しています。本年度は新たな取り組みとしてTTRFと大豊工業の共催で、第1回国際シンポジウムを開催しました。自動車関連企業の開発代表者と学界の主だった先生方に参加いただき、産業界のニーズをお伝えし、研究活動の一助としてもらうことを狙いとしたものです。

また、2016年4月に施行された女性活躍推進法に関する、女性にとって働きやすい職場環境づくりの支援をはじめ、ボランティア活動、地域貢献など幅広い視点での社会貢献も継続してまいります。

企業を取り巻く環境は常に変化しており、企業側の取り組みも進化を続けなければなりません。当グループにおけるCSR方針は、社是である『信頼の大豊』を実現するための基軸であると考えております。コンプライアンスや環境保護など、さまざまな社会的責任を果たしていくのはもちろんのこと、トライボロジー技術で社会的課題の解決を進めてまいります。同時に経営の健全性、透明性を高め、我々を取り巻く全てのステークホルダーの皆様に対して誠実であり続けたいと考えております。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。また、本レポートに対して忌憚のないご意見やご感想を頂戴できれば幸いと存じます。